

# 鳥海イヌワシみらい館通信

Vol,39 2021年 夏号



鳥海イヌワシみらい館  
マスコットキャラクター  
「ワッシーくん」



バードウォッチングへの誘い③

「自然の恵みを生かした持続可能な地域活性化がイヌワシを守る②」

蜂蜜の森から⑩「日本の蜜ろうの歴史①」

「オグロシギ」5月 酒田市 撮影：川上浩之様

## 自然の恵みを生かした 持続可能な地域活性化が イヌワシを守る! ②

絶滅危惧種イヌワシはここ30年間で急激に個体数が減少している鳥類です。そのため環境省では種の保存法に基づいて希少種に指定し、減少要因の解明や個体数を増やすための取り組みを行っています。これまでの調査研究から、イヌワシは私たちの生活様式の影響を受けて減少していることがわかってきました。一方で自然環境を利用して地域活性化を目指す取り組みが全国各地で行われており、実はそれが意図せずイヌワシの生息環境の改善に寄与しているといった事例もあるようです。今回は各地で利用されている仕組みとその活用例の後編です。  
※仕組み①～③については前月号をご覧ください。

### 【仕組み④】 CSR Coporate Social Responsibility (シー・エス・アール)

**企**業が社会全体への貢献や環境への配慮を行うことで、社会的な信頼を獲得し、持続可能な経営が可能となります。山形県では「やまがた絆の森」として38企業による健全な森づくり活動が行われています。

#### 楽天グループ(株)×山形県×山形大学 (クラッチの仲間イヌワシを守ろうプロジェクト)

楽天グループ株式会社は、プロ野球球団「東北楽天ゴールデンイーグルス」のマスコット“クラッチ”のモデルであ

るイヌワシと、その生息環境を保全するために、サステナビリティ活動の一環として「クラッチの仲間イヌワシを守ろうプロジェクト」という活動を実施しました。その取り組みの一つである「やまがた絆の森(楽天の森)プロジェクト」では、山形県と山形大学との3者による協働で、山形県鳥海山の人工スギ林の間伐や作業道の整備を行いました。



間伐作業 | 写真提供: 楽天グループ株式会社



楽天の森施業地(2017年 酒田市)

【仕組み⑤】 行政・NGO・企業  
などによる 「支援制度」



やまがた緑環境税パンフレット  
写真提供: 山形県みどり自然課

支援制度には組織づくりの支援、人材育成や人材確保に関する支援、資金面での支援、研究事業や新規事業への支援などがあります。山形県では県民や法人から「みどり環境税」を納めていただき、山形県の財産である森林整備や森づくり活動などに活用しています。

上山高原自然再生事業 兵庫県新温泉町

2015～17年までの3年間、国の支援制度である生物多様性保全推進事



交付金によるススキ草原維持のための手刈り作業  
写真提供: NPO法人上山高原エコミュージアム

業に採択をされました。ススキ草原維持のための手刈り作業や牛放牧事業を実施し、生物調査などモニタリングも実施することで、効率的な維持管理作業に役立っています。

【仕組み⑥】 観光振興

観光産業において景観を維持することは、多くの観光客を誘致



来訪者で賑わう観光わらび園  
写真提供: 小国町観光わらび園組合

するためには必要不可欠です。整備活動は景観の維持・改善はもちろんのこと、生物多様性にも貢献しています。

伝統的なわらび産業 山形県小国町

わらび生産量日本一の山形県小国町では、9つの観光わらび園が5月下旬～6月下旬までの約1か月間開園しており、地域おこし協力隊や大学などとも連携することによって、火入れや刈り払いなど、わらび園の環境維持に携わ



火入れ後の観光わらび園 | 写真提供: 小国町観光わらび園組合

る人手不足を克服しているほか、後継者の育成にも寄与しています。また、開園シーズン以外でも加工品の販売を継続し、安定した利益を得られるとともに、地域のアイデンティティの維持にもつながっています。

「せどやま券」登録した林家が  
市場に木材を運び入れることで引き換えられる通貨は、  
地域のみで利用が可能です。

【仕組み⑦】 地域通貨

せどやま市場で事業登録している林家から伐採木を受け入れ、地域通貨と交換しています。受け入れた木は、薪やほだ木として販売され、地域外に出るお金の量を減らすことで地域内の経済が活性化されます。



写真提供: NPO法人西中国山地自然史研究会

「地域の木材資源＝お金」であることを実感することによって、森林管理が促進されます。

芸北せどやま再生事業 広島県北広島町



家庭での薪利用 | 写真提供: NPO法人西中国山地自然史研究会

小冊子  
『自然の恵みを生かした  
持続可能な地域活性化  
事例集』  
ができました!



全国の自治体および森林管理団体に頒布されます。  
[http://tohoku.env.go.jp/wildlife/pamph\\_1.html](http://tohoku.env.go.jp/wildlife/pamph_1.html)



# 庄内の動物情報コーナー

果樹王国山形県ですが、生産量日本一を誇る初夏の風物詩サクランボが、春の低温の影響もあって例年になく不作となってしまったそうです。向こう3か月予想でも涼しい傾向という予報もあり、夏の気候が気になるところです。また庄内では春から多くの迷鳥、珍鳥が報告されています。引き続き各地の自然情報をmoukin@raptor-c.comまでお寄せください。



2021/4/12 「コチドリ」酒田市  
かわいらしいチドリの仲間。黄色いアイリングが特徴で愛くるしくちょろちょろと走り回ります。まさしく千鳥足。  
撮影：横山博様



2021/4/24 「クロジ」酒田市  
アオジ、キジ、クロジ・・・赤字がいたら見たくない鳥かもしれませんね。  
撮影：土屋和哉様



2021/5/3 「ムギマキ」酒田市  
庄内では鳥海山に「種まき爺さん」が姿を現すと農作業の準備が始まりますが、全国的には麦を撒くころにやってくるムギマキを見れば、麦を撒く頃合いです。見られない年もあるので指標にするのはちょっと・・・  
撮影：とし様



2021/5/29 「ズグロカモメ」酒田市  
本来、夏になると頭部が黒くなるはずのズグロカモメですが、若いころは黒くならないので、野鳥の会築川堅治氏曰く、これが「シロガンズグロカモメ」なんだそうです。  
撮影：渡会様



2021/6/20 「バン」鶴岡市  
鶴岡市街を流れる河川は意外と気にしている人が少ないかもしれないですが、初めて見る人には「なんだ！あの赤いくちばしの鳥は！」となるかもしれないですね。  
撮影：毛呂様



2021/6/30 「セッカ」酒田市  
山形県では絶滅危惧ⅠA類となっているほど見ることが難しいセッカ。どうやら4年ぶりの観察記録だとか。  
撮影：齋藤修様

## 全国の動物情報コーナー



2021/5/14 「イカル」新潟県  
枝を口にくわえて繁殖の準備をしているそうです。木の実が大好きな鳥で、太いくちばしは木の実を割るのに適した形状です。  
撮影：波多様



2021/6/25 「クジャクチョウ」秋田県  
クジャクの羽のような目玉模様が美しいチョウ。北方系のチョウで生息できる地域もだんだんと北上しているようです。なんとかしないと！  
撮影：たっちゃん様



2021/6/26 「アオバト」神奈川県  
緑色の美しい体ですが、良く見るとのどやクチバシの周りが赤く色づいています。ヒナへ給餌する際にヤマザクラの果汁がこぼれて着色されたのではないかと思います。  
撮影：こまたん金子様

# イベント開催報告

## ○「春を感じるさえずり観察会」

4月24日(土)月山ビジターセンター共催「春を感じるさえずり観察会」を開催しました。

ネイチャーカメラマンの太田威さんを講師にお迎えして、鶴岡市高館山周辺の早春の野鳥たちのさえずりと野草たちを楽しみました。長年にわたって環境の保護を訴えてきた太田さんの解説は温かみの庄内弁からも重さが伝わってくるものでした。鳥に限らず意識的に自然を観察することの大切さを教えていただきました。参加されたみなさん、講師の太田さん、パークボランティアの皆さんありがとうございました。

この日見られた鳥:ハヤブサ、トビ、ミサゴ、ハシボソガラス、マガモ、カワウ、ヒヨドリ、カワラヒワ、シジュウカラ、アオジ、タヒバリ、ツグミ、スズメ、コハクチョウ、カンムリカイツブリ、ウグイス、ホオジロ、メジロ、アオゲラ、ウミネコ、アオサギ、ハシビロガモ、カルガモ、キジバト、カワセミ、ツバメ、イワツバメ、カイツブリ、コガモ、アトリ、ダイサギ、ヨシガモ(計33種)



## ○「ゴールデンウィーク工作体験教室」

5月1日(土)~5日(水)「ゴールデンウィーク工作体験教室」を開催しました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予約制とし、ハンドクリーム作り、蜜ろうそく作り、エコバッグ作りの3プログラムを、体験会場で人が密にならないようにエリアを分けて開催しました。

せっかくの連休だったのですが、天気が悪ったこともあり、室内でも楽しめるイベントとして利用していただきました。

買い物袋も有料化になりましたので、エコバッグも多くの人たちが作ってくれました。ハンドクリームも人気がありました。

来場してくれた皆さんありがとうございました。



## ○「"あえて"市街地で見ると自然観察会」

5月29日(土)「"あえて"市街地で見ると自然観察会」を開催しました。

自然が少ないように見える市街地で、あえて自然を観察してみようという趣旨です。講師は水環境の専門家として、生涯学習コーディネーターの今井努さん、野鳥専門の講師は長船裕紀さんよりご案内いただきました。

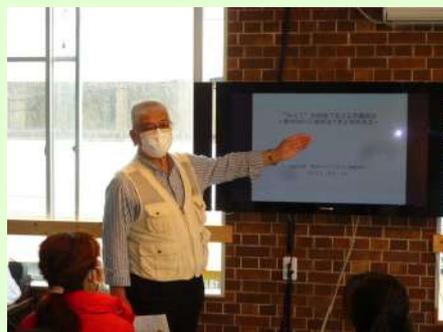
当日の集合時はかなりの豪雨だったこともあり、室内での座学よりスタートしました。講師の今井さんからは新井田川の水質や生息する魚類とその生態について解説いただきました。

長船さんからは市街地には鳥が一体何種類いるのかというクイズが出題され、それを確認するために雨上がりの屋外で観察を開始しました。

酒田市が一を流れる新井田川周辺には、国の史跡となった「山居倉庫」でも多くの野鳥たちが暮らしていることが観察できました。また保存樹として残された市街地のケヤキの木ではフクロウの仲間「アオバズク」を観察することができました。意外と多くの動物たちが暮らしていることを知っていただくことができました。

講師の今井努さん、長船裕紀さん、参加してくれた皆さんありがとうございました。

この日見られた鳥:ハシボソガラス、カワラヒワ、アオサギ、アオバズク、ハクセキレイ、ムクドリ、ウミネコ、ダイサギ、キジバト、オシドリ、シジュウカラ、コチドリ、ヒヨドリ、スズメ、ツバメ、オオヨシキリ、トビ、カワウ、コムクドリ、モズ、イワツバメ(計21種)



酒田の市街地でも観察できた「アオバズク」

# 猛禽類保護センター活用協議会職員 退職のご挨拶

酒田市環境衛生課専門員 後藤 啓

1年3か月間の短い間でしたが、大変お世話になりました。猛禽類保護センターでの勤務では、猛禽類はもちろんのこと鳥類全般のことを聞きに来るお客様がいたり、首都圏の方が3回も訪ねて来てくださったり、鳥類の渡りに合わせ自家製のキャンピングカーで追っている方にお立ち寄りいただいたり、全国の熱心な猛禽類ファン、鳥類ファンの拠点のような施設だと実感いたしました。新型コロナウイルスの影響で、本来のイベント、観察会が開催できず、皆様のご期待に沿えなかったことが残念でした。

八幡町時代に、コクドのスキー場開発事業に従事し、イヌワシの生息状況の調査で上ノ台、光台の竹やぶを漕ぎ歩いた日々を思い出しました。イヌワシを見たときは感激しました。まさに王者の風格が漂う、堂々とした飛翔でした。今、家の周辺ではノスリが飛び回り、カラスとの格闘をしています。今までは何気なく見過ごしていた鳥の生態に注目することができるよう成長できたと思います。帰宅途中にイヌワシの親子3頭を目撃したり、クマの道路横断を目撃したりと自然の中にある猛禽類保護センターを実感した期間でした。これからも陰ながら、猛禽類保護センターの活動を応援いたします。



# 猛禽類保護センター活用協議会職員 着任のご挨拶

猛禽類保護センター活用協議会事務局 清原 貴広

7月1日より猛禽類保護センター活用協議会にお世話になっております、清原貴広(きよはらたかひろ)と申します。宜しくお願いします。毎日、田園や山あいのきれいな景色を見ながら、時々どんな野鳥が飛んでくるか探しながら、センターまでの通勤を楽しんでいます。(しっかり安全運転をしていますので安心して下さい！)

息子がワシ、タカ等の猛禽類に関して興味を持ち始めてから、協議会事業に参加するようになり、当初は付き添いと思って私も参加していましたが、今や家族を巻き込んで「鳥」への関心が深まっています。自宅周辺を飛んでいるトビやノスリの区別はつくようになりましたよ！

今後はセンターの一員として、息子を超越する？くらいの知識が得られれば良いなと思っています。

いまだ新型コロナウイルスの勢いが衰えない中で、協議会事業も様々な対策をとりながら行っている状況です。皆様には今しばらくご不便をおかけしますが、収束の日が近いうちに来ることを期待しつつ、協議会事業を円滑に進める一助になればと思います。今後ともよろしく願いいたします。



## イベント開催情報

### フィールドワークショップ「<sup>もり</sup>森林とイヌワシ ぽらす SDGs」

ニホンイヌワシは、我が国の山岳地帯～森林地帯に生息する大型の猛禽類です。しかし、生息環境の悪化から絶滅が心配されており、環境省レッドリスト絶滅危惧IB類に指定されています。主な生息地である国有林を管理する林野庁と、イヌワシの調査・普及啓発活動の拠点である猛禽類保護センター（環境省）による観察会です。

期 日 令和3年9月4日(土)

時 間 9:00~15:00

場 所 鳥海山周辺

対 象 山形県内に在住の一般・

小学校5年生以上(保護者同伴)

定 員 先着15名(令和3年8月16日募集開始)

参加費 一人500円(バス代、資料代、保険代)

持ち物 双眼鏡(貸出有)、昼食、雨具、飲み物

お申込み・お問い合わせ

猛禽類保護センター TEL 0234-64-4681

主催/猛禽類保護センター活用協議会 共催/林野庁 庄内森林管理署

環境省 鳥海南麓自然保護官事務所





# 夏休みクラフト体験教室

期間 令和3年7月26日(月)～8月15日(日)

時間 午前の部 ①9:00～ ②10:00～ ③11:00～

午後の部 ④13:00～ ⑤14:00～ ⑥15:00～

お申込み：必要 ※申し込みはなくても当日空きがあれば参加可能です。

※3密回避のため体験人数に制限があります。詳細はお問い合わせください。

お問い合わせ：鳥海イヌワシみらい館 TEL0234-64-4681 mail; moukin@raptor-c.com

※メールでお申し込みの場合、当館からの返信をもって受付完了となりますのでご了承ください。

## 1週目 7月26日(月) ～8月1日(日)

「サーモンフライ小物作り」  
1個 300円



フライフィッシングで使用される「毛鉤」は鳥類の羽根を使って昆虫などに似せて作られます。羽根の組み合わせで素敵なブローチやヘアピン、ストラップなどを作ります。

「木と角のスプーン・  
フォーク作り」 1個 400円



酒田市産木材と、有害駆除で処分される鹿の角を加工し、スプーンやフォークの柄にします。一つ一つ違う天然素材の特徴を生かしたカトラリーにしましょう。

## 2週目 8月2日(月) ～8月8日(日)

「蜜ろうハンドクリーム作り」  
1個 400円※容器持参の方は300円



蜜ろうをベースオイルに溶かして無添加ハンドクリームにします。香りのエッセンスも入れて自分だけのオリジナルハンドクリームを作ります。

「ドリームキャッチャー作り」  
1個 300円



アメリカの先住民に伝わる鳥の羽を使ったお守りです。サークルの中の編みみやビーズを変えることで、デザインを楽しめます。

## 3週目 8月9日(月) ～8月15日(日)

「酒田市産木材で  
ボールペン作り」1個 500円



酒田市産の杉間伐材、ケヤキ材、サクラ材、国内産鹿角を使ったオリジナルボールペンを作ってみましょう。捨てずに有効活用することで環境保全に貢献します。

「絶滅チャーム作り」  
1個 300円



『人間の行いで動物たちを絶滅させないぞ!』という誓いを込めて、古代ザメやアンモナイトなど絶滅動物たちの化石を使ったアクセサリーを作ります。



# 蜂蜜の森から 第18回「日本の蜜ろうの歴史1」

山形県朝日町で蜜ろうそくの制作を通して、自然のすばらしさを伝えている安藤竜二さんによるコラムのコーナー第18回目です。蜂蜜の森を通して私たちが暮らす環境を見つめなおしてみませんか？



画像上:「臍蜜(ろうみつ)」二ホンミツバチの巣から採取された蜜ろうを丸餅状に固めたもので、薬用として軟膏の基剤などに使われていた。

画像右:「臍縹屏風 羊木屏風(ろうけちのびょうぶひつじき)」象木屏風と対となり、大きさは二扇あわせて1畳ほどの大きさの屏風。「ろうけつ染め」は、染色する際に、ろうが塗られた部分は染まらずに残り、染色後ろうを落とすことによって、染められた部分と染めぬかれる部分に仕上がる。

画像引用: 宮内庁「正倉院宝物」より



日本でのろうそくの始まりは、奈良時代の仏教伝来とともに中国から輸入されていた「蜜ろうそく」だったそうです。『伽藍縁起并琉記資財帳』には、722年に元正天皇からろうそくを賜った記載があるそうです。当時の蜜ろうそくは大変貴重品で、宮廷や一部の寺院でしか使われていなかったのです。

正倉院の宝物にも「臍蜜(ろうみつ)」として蜜ろうのかたまりが収蔵されています。薬(軟膏を作る基剤)やろうけつ染めの材料として用いられていたそうです。実際、宝物には、奈良時代に日本で作られたろうけつ染めが流行していたことをうかがい知ることができます。

しかし、平安時代にはこのろうけつ染めの技法は衰退し、蜜ろうそくも使われなくなってしまいました。菅原道真が遣唐使を廃止したため中国との交易が途絶え、蜜ろうも、蜜ろうそくも輸入されなくなってしまったからです。

その後、松ヤニを使ったろうそくが作られ、室町時代後期になると、今度は中国から漆やハゼの実で作る「木ろうそく」の技術が伝わり、江戸時代には盛んにつくられるようになりました。

国内での蜜ろうの量産は大変困難でした。なぜなら野生種の二ホンミツバチは、群れが小さく逃げやすいため、本格的な養蜂には適さなかったからです。江戸時代後期に、やっと二ホンミツバチの養蜂技術が確立し、蜜ろうも生産していた記録が残っています。



安藤竜二 (あんどう りゅうじ)  
1964年生まれ。養蜂を学んだ後1988年に、日本ではじめての蜜ろうそく製造に着手。ハチ蜜の森キャンドル代表。NPO法人朝日町エコミュージアム協会副理事長。アシナガバチ畑移住プロジェクト主宰。近著『手作りを楽しむ蜜ろう入門』(農文協)・編著『朝日岳山麓養蜂の営み』(朝日町エコミュージアム研究会発行)



Illustrated by Masami Tsuno

©鳥海イヌワシみらい館

## 普及啓発担当

夏休みは、鳥海イヌワシみらい館で工作をしてみませんか？指先を使って作業をすることは、実は脳の成長にとってもよいことなんだそうです。子供のころ工作の宿題に「なぜ？」と疑問を持っていたのですが、必要なことだったと大人になってからわかりました。(本)

## 希少種保護増殖等専門員

東京五輪、大好きな柔道を見てすごく興奮しています。あと、卓球混合ダブルスを見て伊藤美誠選手のファンになりました。(長)

## 鳥海南麓自然保護官

あんなに寒かった日々は夢ではなく、こんなに暑い毎日まぼろしではない。毎日が一期一会ですね。(澤)

## 編集後記 & 施設情報 鳥海イヌワシみらい館 8月～10月の開館情報

開館時間・・・9:00～16:30

入館料・・・無料

休館日・・・無休

臨時休館日はホームページにてお知らせします。

ホームページアドレス : <http://www.raptor-c.com/>

[f https://www.facebook.com/Raptoreagleraptor](https://www.facebook.com/Raptoreagleraptor)

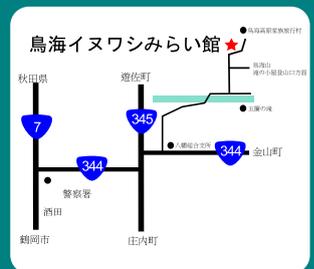
## 猛禽類保護センター

〒999-8207

山形県酒田市草津湯ノ台71-1

TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683

E-mail: [moukin@raptor-c.com](mailto:moukin@raptor-c.com)



鳥海イヌワシみらい館通信  
Vol.39 夏号

発行: 猛禽類保護センター活用協議会  
(事務局 鳥海イヌワシみらい館内)